障害者の雇用・就労促進のための 関係行政機関会議

平成18年4月26日

主催 文部科学省 厚生労働省

福祉・雇用・教育のネットワーク(利用者にとって)

- 1 ライフステージを通じて、必要な時期に、適切な支援を受けることが可能に。
- 2 就労に関して起こりうる様々な問題に関して、 適切な分野の支援を受けることが可能に。
- 3 どの窓口へ行っても、必要な支援に結びつく。



安心感を持って、様々なステップにチャレンジできることにより、二一ズに合った就労が可能に。

福祉・雇用・教育のネットワーク(支援者にとって)

現状と問題点

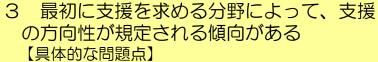
1 各分野の「就労支援」の在り方に関する イメージの不一致

【具体的な問題点】

- ・ 他の分野が各分野にどのようなニーズを持っているかが分からない。
- ・ 障害者本人の能力に関する評価が、各分野 ごとに共通していない。
- ・ 教育・福祉分野において、障害者の就労を「ハードルの高いもの」と思いがち。
- 2 ライフステージごとに支援が分断されが ちである

【具体的な問題点】

・ 支援が分断されることへの不安から、利用者 が一つの分野に滞留する傾向。



- ・ 各分野それぞれで、支援を自己完結させよう とする傾向。
- ・ 結果的に、他の分野における適切な支援に結びつきづらい。

ネットワークがあれば

1 各分野の「就労支援」に関するイメージの 共有化

【改善される点】

- ・ 各分野の強み、弱みや、それぞれのニーズに関 して共通認識を持つことで、効果的な役割分担が 可能に。
- ・障害者の能力に関する評価の共有が可能に。
- ・ 「障害者の就労」に関するイメージについての ハードルを低くすることが可能に。
- 2 ライフステージを通じた一貫した支援が可能に

【改善される点】

- ・ 各分野が情報を共有することにより、ライフス テージを通じた切れ目のない支援が可能に。
- ・ 利用者が安心感を持って、必要な次のステップへ 踏み出すことが可能に。
- 3 どの窓口へ行っても、同じ支援に結びつく。 【改善される点】
 - ・ 各分野が、支援を自己完結させずに、必要に応じて、適切な他の分野のサービスに結びつけることが可能に。

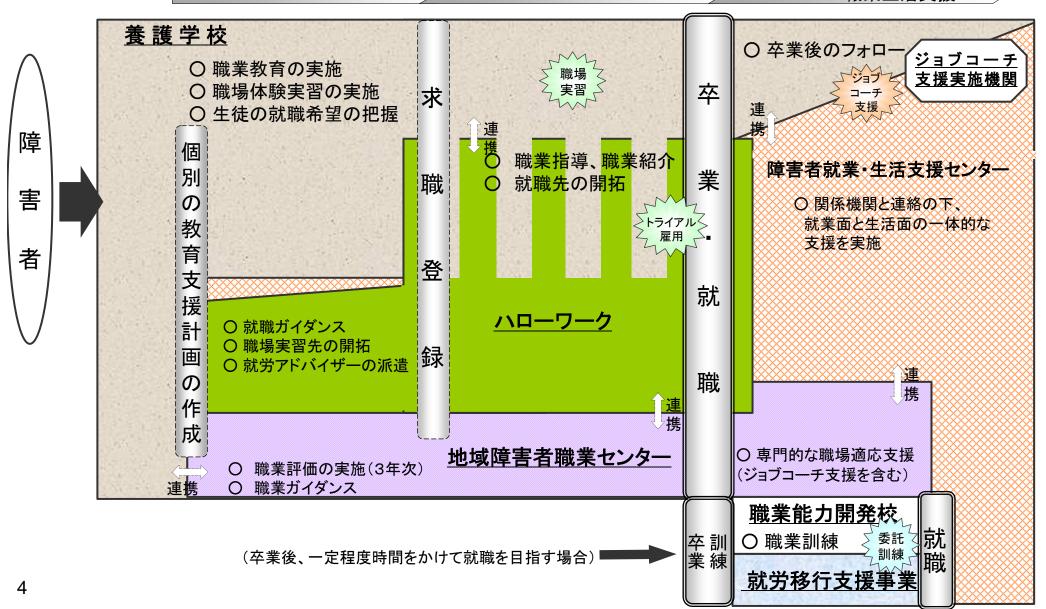


養護学校卒業者が就職・定着するまでの標準的な支援

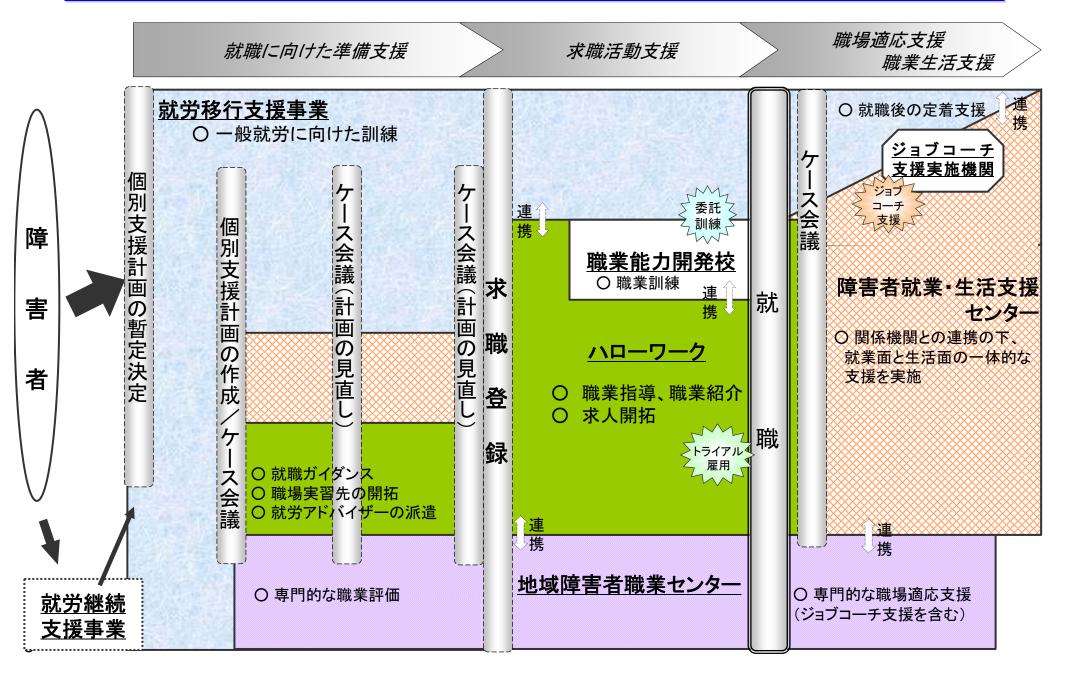
就職に向けた準備支援

求職活動支援

職場適応支援職業生活支援



福祉施設を利用している障害者が就職・定着するまでの標準的な支援



離職した障害者が就職・定着するまでの標準的な支援

職場適応支援 就職に向けた準備支援 求職活動支援 職業生活支援 就労移行支援事業 ○就職後の定着支援 〇一般就労に向けた訓練 ゙゚ジョブコーチ 再チャレンジ 支援実施機関 コーチ 連 離 ハローワーク 職 障害者就業 生活支援 求 就 職業指導、職業紹介 センター 障害者就業 〇 求人開拓 職 た 生活支援センター ○ 関係機関と連携の下、 就業面と生活面の一体的 生活面も含めた相談 障 な支援を実施 トライアル 雇用 害 すぐに求職活動 職 録 者 職種技能の習得を目指す 職業能力開発校 連 委託へ 携 訓練 〇職業訓練 専門的な職リハの利用 〇職業相談 地域障害者職業センター 〇 失業手当 の給付 〇 専門的な職場適応支援 ゆるやかな働き方へ ○職業評価の実施 (ジョブコーチ支援を含む) 〇 職業準備訓練 就労継続 6 支援事業

都道府県・圏域における就労支援ネットワーク

